

三野新聞

第10号 平成16年5月

発行:ひとつの志(三野由美子)
〒251-0035
藤沢市片瀬海岸3丁目15-6
HP: <http://y-mino.net>
E-mail: mino@y-mino.net



新会派結成!
詳細は裏面に

藤沢市議会議員 無所属38歳
三野由美子 みのゆみこ
・建設常任委員
・環境災害対策特別委員
・会派「ひとつの志」
・若い市長と改革の会代表
プロフィール:早稲田大学商学部卒/
元電通ヤング&ルビカ(株)社員/国体
ヨット競技2回出場/1987年ウインド
サーフィン全日本選手権第3位

平成16年度予算審議 「安全・安心元気回復型予算」とは?

予算等特別委員会委員をはじめて経験

3月1日(月)より24日(水)まで、藤沢市議会2月定例会が行われました。2月定例会は一般質問はありませんが、2人以上の会派が代表質問をすることができます。また、平成16年度の予算審議をするために12日から23日まで、予算等特別委員会が設置されました。代表質問はできませんが、希望を出して予算等特別委員会の委員になり、初めて予算審議をすることができました。

今回の予算は新聞でも報道されたように「安全・安心元気回復型予算」として、民生費3%、労働費4.9%、農林水産業費20.6%の増額(前年度対比)や、校舎耐震補強工事計画など、防災、防犯、福祉、産業育成に重点を置いています。歳入についても市債を前年度対比15.7%増額する積極策を打ち出しています。

現在の社会不安の増大を考えると、その対策に重点を置いた積極的な予算編成は評価します。しかし一方で、教育費が6.6%減となっており、将来の社会を支える子供たちのことを考えると、学力向上施策等にも力を入れるべきではないかと考えます。逗子市では数年前に入札改革等を中心とした財源の確保により、教育費をなんと「倍増」していたことを思い出しました。

また、税金の伸び悩みや、平成20年度には退職手当が30億円を超えるという予測に対する財政計画はたてていないということですが、市長が三期目の課題の一つにされている「総合計画2020」の見直しに着手するにあたって、こうした要素を踏まえた上での長期的な財政計画が必要であり、公の責任領域を明確にして行政のスリム化を目指すべきです。

予算審議の質疑と討論から

【時間外勤務の検証と思い切った改革で人件費の削減を】

三野: 昨年10月に時間外勤務手当の削減を目標に導入されたワークシェアリングによる効果額は?

山崎職員課課長補佐: 約1300万円削減、臨時職員12名分の賃金は1000万円。(効果額は差し引きして300万円ということになる)

政治活動資金報告(平成16年1月1日~3月31日)

政治活動は一体何にいくらかかるのか、毎号報告してまいります。	支出	(円)
	レセプション・懇親会参加費	5,500
政治資金の残り、あと 923,527円 自己資金1,500,000円からスタート! 政治献金は一切いただいておりません。		

政務調査費収支報告(平成15年5月1日~平成16年3月31日)

毎月8万円を上限として市から支給される政務調査費もガラス張りにしてご報告いたします。

収入		
政務調査費		880,000
支出(使途基準の項目にしたがって分類)		
研修会、講演会、市政報告会等の開催及び出席に関する経費		13,000
現地視察及び研修視察等に関する経費		123,107
資料の収集及び作成に要する経費		7,400
図書、雑誌、新聞等の購入に関する経費		204,893
会派で雇用する職員の人件費等に要する経費		57,613
会派が発行する広報誌の作成、配布に関する経費		48,757
通信、消耗品等一般事務に要する経費		236,768
合計		691,538
残額(全額返還)		188,462

添付領収書も含めた、全会派の収支報告は情報公開によってご覧になることができます。インターネットでも公開請求ができます。
(お問い合わせ先:藤沢市情報管理課 tel 0466-25-1111内線2661)

時間外勤務の一人当たり月平均時間には部署間でばらつきがありますが、業務の効率化、人件費削減、職員の健康維持のために、部署間の職員数の配置見直しや、突発的、予想外の業務増加も吸収できるワークシェアリングを活用した体制の構築を要望しました。

また、引き続き総務省の指針や他自治体の改革成功事例や民間企業の取組みも合わせて研究し、経費削減だけでなく、職員の意欲向上も視野に入れた柔軟な対応の必要性を主張しました。

【自治体の憲法である自治基本条例制定に向けて】

平塚市や大和市などをはじめ複数の自治体が「自治基本条例制定に向けての取組み」を進めているという記事を見かけるようになりました。今定例会では議員の中から「市民自治基本条例」の「早期制定」を求める声も上がりましたが、これは行政や議員だけでつくる今までの条例とは性格が異なるもので、その中によく組込まれる「住民投票制度」なども、市民が本当に求めるかたち(裏へ)

を明確にしておくなくてはなりません。市はどのような考えでしょうか。

三野:市民自治基本条例制定へ向けてのシンポジウムなどの予定はあるのか。
加藤企画部参事:この条例をつくるにあたって、市民との接点をどのように持つかは本年度の研究課題の一つである。

わが会派としては、「市民のルールを市民がつくる」ために「藤沢市にふさわしい条例は？」といったことを市民に問いかけることから始めて、じっくり時間をかけることの必要性を主張しました。これは先行して自治基本条例策定を進めている、三鷹市、大和市、逗子市などのフォーラムに出席して、行政や市民の声を実際に聞いて感じたことです。

【みどりゆたかな住環境、次世代に残したい自然環境を守る】

3月6日、市内で行われたグリーンフォーラムでは「今まで不動産売買時に廃棄物にしかならなかった宅地の樹木にも市場価値が認められはじめています」といった講演があり、来賓の山本市長も「みどりを守ってゆきたい」と述べられました。それらを踏まえた上での、みどり保全に対する今後の姿勢について質問しました。

三野:川名緑地等の里山里地の保全や、保存樹木、樹林、生垣助成制度の推進は？
小松公園みどり課主幹:現段階は、樹木保全とみどり基金による緑地取得に頼るのみ。

市は「みどり」によって都市の価値を上げることに、もっと積極的になるべきです。また、治安、風紀、青少年の健全育成のための条例制定などと合わせて住環境の保全を要望しました。(役職はすべて予算等特別委員会当時のものです)

12月の一般質問に関連した、その後の市政は？

【安全安心なまちづくりに向けて、小学生に防犯ブザー配布！】

12月議会で児童生徒に防犯ブザーを貸与している杉並区の事例を挙げて、子供の安全について質問したところ、藤沢市も市立小学校全児童への防犯ブザー無料配布や、さすまた等防御用具の学校への配置費用を16年度予算に計上しました。社会の状況を捉えた市の迅速な対応を評価します。

今後はハード面だけでなく、地域ネットワークの強化等のソフト面も市が積極的にサポートするように、「子供たちにも安心なまちづくり」を提言してまいります。

【ハス池、桜小路公園を中心とした、うるおいのあるまちづくりを！】

3月27、28日の両日、藤沢都市計画公園(桜小路公園、通称・ハス池広場)区域変更の説明会が行われました。この計画変更は、「自然環境保全と水害対策の観点から池の8割を保存する」等の土地利用形態が明確になった第一ハス池を、都市計画公園区域にして、第二ハス池と一体整備してゆこうという方針のものです。予定では5～6年後くらいを目標にするそうです。

これは、市が残された自然を市民共有の財産と位置づけて前向きに保全し始めたということであり、30年以上前に議会で保全整備を求める請願が採択されたものの、実際には事業が進まなかったことを考えると大きな前進です。市に対する異議もまだ出ているようですが、ここで「池のある公園を中心としたうるおいのあるまちづくり」に目を向けることこそが、環境という財産を次世代に残してゆくことにつながるのではないのでしょうか。

既に市内では、住環境を守るための開発規制などを含めた地区計画実現に向けて、行政も加わって市民の活動が始まっている地区があります。平成14年12月議会では石渡計画建築部長(現助役)が「地区計画を視野に入れた地域のルール作りには、行政も積極的に技術支援を行いたい」と答弁されています。

30年前からの市民の願いがやっと実現されようとしている桜小路公園と、それを中心とした「まちづくり」にも行政の積極的な支援が期待されます。

しがらみのない市政を目指す新会派、「ひとつの志」結成！

2月27日より、しがらみのない議員四名が集まり、新会派を結成しました。メンバーは2期目の井手拓也氏、私と同じく1期目の有賀正義氏、原輝雄氏です。会派とは、市政に対して同じような考え方や意見を持った議員の任意団体のことです。当選直後、私は「だれが議員として同じ考え方なのか、届け出締切までの数日では判断できない」と考えて「改革藤沢」という名前の「一人会派」として活動してまいりました。

「ひとつの志」の行動目標は？
一、説明責任を果たし、分かりやすい市政を目指す
一、積極的な政策提言を行う
一、広く市民の立場に立ち、良いものは良い、悪いものは悪いと明確に主張する

私以外の3名は、議席の過半数を占める大会派に所属していましたが、昨年9月に井手氏が離脱し、原氏、有賀氏は昨年末、会派幹部に離脱表明。2月定例会で新会派としての代表質問等の発言権が確保できるように早期手続きを促しましたが、大会派側の書類提出まで約二ヶ月もかかってしまい、手続き上新会派で準備していた代表質問もできず、予算委員も1名のみという厳しいスタートとなりました。

しかし新会派結成により、議会運営委員会や各派代表者会議で発言できるようになりましたので、こうした機会を十分に活用し、私たちしがらみのない四人の力を合わせて、開かれた市政へ向けて活動してまいります。

編集後記 定例会中の予算等特別委員会中に、昨年初当選されました小林健議員が議場で倒れ、お亡くなりになりました。所属会派はちがっても、同期の中では年長で、いつも笑顔であたたかい励ましやアドバイスの声をかけてくださいました。非情に悲しいできごとでしたが、心よりご冥福をお祈り申し上げるとともに、任期半ばで他界された無念さを思い、残された者はさらに真摯な気持ちで市政に取り組んだいかなければならないと肝に銘じました。